食べなよ。食べなよ。汚らやん。いうから食べなよ。

『金切り声を出して。片方の半分を、ホテイの手の中へ無理矢理押し出しにした。』

『always』

『父ちやん。豚だよ。豚だよ。食べべて観覧へ、美味しさいったから。

ホテイの耳はジャンバーダン鳴り出しました。そしてもうたぶん、無茶苦茶に怒鳴って居りました。ボーボーはボーボーで、さつからつつじ一匹御駄走になってしまふまで、急に鼻の先をピッコ動かしながら、又して灰の中から一匹、焼け死んだ仔豚を探し出して參りました。そして今度は、力一杯それを二つに引き裂くぞ。』
は、こつそり人をやって、町中の仔豚さじふ豚豚、一匹残らず、買い集めさせました。
それにから二日経ちました。まだ日の明るい中でした。
裁判長は大変賢い人でありましたから、無罪さい二判決をしてしまった。その代わりに、裁判がついて、家へ帰ろう。裁判長

そんな風で、人々は段々どうも粗末な家ばかり建てるに
うなって、今迄のように、競争で立派な家を建てるさ
うな場合は、見しようとにも見られないとなってしまい
ました。そして今これでは、大工も、左官も。らなくなつて
しまふだろうさまえ思われました。

皆さん、もしこのままで続いて居たら、さうでせう。で
も、ここには、ほんこに、ここには、それか
生田教育本部の臨に約三十秒の黙祷を捧げた。

次仙臺保育会より一同会員を代表して叮嘆なる主催者
側への謝辞あり。尚議長より次主催地は、昭和十二年度
仙臺市に於って同十五年度は東京市に於て開くと由報告あ
り。午後○時二十分盛合集里に解散した。閉会後一同大々。
事定員自由見学あり。

追而本대会詳細なる記録は、大阪市保育会よりパンフレ
トとして刊行の旨。

以上

六月より

間もなく、それはそれは豪い賢人が生れて、私達に大
変有難い発明をして下さったのです。それは豚だとか、お
魚だとか、お肉を焼くのに、なにも懐々家家迄焼かなくさ
も、金串したとか、肉焼りとか、大変便利な道具がこれへ
らされるこいふ、この大発明をして下さいました。お陰でそ
れからよいふものは、私達は一度一度お家を焼かなくとも、
あの美味しいお魚だとか、お肉だとかを煮たり、焼いたり、
さわやかな五月の風に、セルの乾ききった新鮮なこの
事と存じます。

四月に迎へたことも達も一日毎に、こちらのものにな
りません。また、小さい昨年に先輩らしくふるさとこ
ども達は、ますくつ込込んでみて行けうになりません。
本こうにカーでいになるならまれない五月です。

さきに好評いたいきました童話に次いで童話の募集中
です。お会に一つ勉強してさび、少くとも一篇
は紹介いたさうではございませんか。

(編輯部)